

H25年度 JAQG活動報告会（質問／コメント及び回答）

JAQG事務局
(1/3)

No.	ご質問／コメント内容	JAQG回答
「知りたい内容がカバーされていましたか？」		
1	9100及び9102の本文概要が知りたかった。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。 なお、規格本文の概要説明は、著作権及び報告会の時間的制約もありますこと、ご承知おき下さい。
2	9100改正に関する情報が知りたかった。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。 9100は今後の改正検討進捗に合わせ、情報提供する予定です。
3	IAQG/JAQGで使用する略語のリストがあればいいと思う。	今後の改善点として検討致します。
「それぞれの説明は分かりやすかったですか？」		
1	内容が豊富である為、説明の焦点を絞り込むべき。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
2	特殊工程検討WGについて、Nadcap認証を受けられないISO9001:7.5.2項が社内に含まれたり、プライムが別途要求する工程などNadcapのみ7.5.2項とできるのか検討してください。	Nadcap受審に係る要件の詳細な内容については、PRI日本事務所にお問い合わせください。
3	各WGの説明時間が短いので、従来、説明済のものは省略するなどして、具体的内容(事例)ができるよう工夫してほしい。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
4	9110改定内容が未だ明確でないため、わかりにくかった。	9110は今後の改正検討進捗に合わせ、情報提供します。
5	単純な活動状況だけでなく、具体的な追加、変更内容、その考え方が聞きたかった。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
6	SJAC9068は9104へ反映となっていくのか。	SJAC9068は9100規格に反映を提案していきます。
7	強固な品質マネジメントシステム構築の検討について、もう少し詳細を紹介頂くことよかったです。	JAQGホームページに掲載のガイダンス文書をまずはご覧ください。
8	スケジュール(時間割)に改善の余地があると思います。(後半、時間がなく急ぎとなったため)	午前中から報告会を開催する等、今後、改善を検討します。
9	全体的に、スケジュールの説明が多く、前回から何が変わったのか、何が問題点として討議されたかを説明して頂きたい。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
「報告会全般について満足されましたか？」		
1	報告内容の種類が多く、個別の項目についての時間が少なかった。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
2	後半は報告内容と発表時間とがアンマッチしていた。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
3	会場の席が狭かった。また、スクリーンの下の方が後ろからは見えない。	会場の選定時に考慮します。
4	9100:2009の時のように、要求規格や審査要領に大きく影響が予想されるか否かだけでも聞かせていただきたかったです。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。 9100は今後の改正検討進捗に合わせ、情報提供する予定です。なお、現時点で、IAQGでは、審査要領(9101)の要求事項を大幅に変更することは検討していませんが、9100はISO 9001次期改正を反映することから、それに伴う影響はあると予想します。
「JAQGの方向性/活動内容に満足されましたか？」		
1	スペースフォーラムは2006年設立から7年経っているが、「品質の著しい改善とコスト低減」の方針に対しての成果が分からない。	設立以降、宇宙分野での主要なメーカの9100採用と認証取得推進、サプライヤーへの展開、9100等規格作成に参加/改正に対する提案、ベストプラクティス共有を通じて、品質の改善とコスト低減に努めております。 また、JAXA殿のQMS適用に向けた支援も開始しております。 以上を通してより一層の品質/コスト改善にも貢献していきます。
2	航空当局との協力をぜひ推進いただき、9100が認定事業の仕組みを網羅するようにしてほしい。	今年度からステークホルダーとの関係構築強化を推進しますので、活動の一部として検討させていただきます。
3	何をやってきたか、検討状況/ステップ等の説明(報告)が主体でしたが、トピック的に具体的な紹介があると良いと思いました。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
4	今後も日本が大いにイニシアティブを発揮されるように期待します。特に、9100改訂作業で、規格要求事項に日本の意見が多く取り入れられるように期待します。	ご声援ありがとうございます。 9100の規格改定においては日本の意見を積極的に出して行く所存です。
「質疑応答の時間は十分でしたか？」		
1	個別の質問は、別途実施する方がよいと思う。	今後の報告会の改善点として検討します。

H25年度 JAQG活動報告会（質問／コメント及び回答）

JAQG事務局
(2/3)

No.	ご質問／コメント内容	JAQG回答
「JAQGメンバー専用ウェブサイト満足していますか？」		
1	9104-1のFAQの和訳を作成してほしい。	既に公開済(2014年6月)です。
2	パブリックサイトと同様にメンバー専用ウェブサイトのリニューアルを期待します。	H26年度にメンバー専用ウェブサイトのリニューアルを計画しています。
3	IAQG(OASIS)の日本語版サポートが欲しい。	現在、OASISデータベースの日本語対応状況は、フィードバックが日本語入力/表示可能となっております。メニューの日本語対応等のサポートは計画されていません。 なお、日本のJIS Q 9100認証取得組織様/認証機関様の便宜のため、特に説明が必要なものについて、日本語の操作マニュアルなどをパブリックウェブに公開しておりますのでご活用ください。
4	Nadcapチェックリストはありがたいが、Excel版を提供していただけるともっとありがたい。	チェックリスト対訳版のご活用、ありがとうございます。PRIとのこれまでの調整により、pdf版以外の提供は不可能な状況です。
5	JAQGIに寄せられたコメントについては、その回答を含めて、Webで回答していただきたい。	会員共通の内容についてはJAQGホームページで取り上げていきたいと思っております。
「JAQGの各WGに取り組んで欲しい活動項目」		
1	機能安全(ISO26262)に対する取組みを検討されてはいかがでしょう？	会員組織様の間ではニーズが少ないと思われるので現時点では見送らせていただきます。
2	SCMH和訳のさらなる推進を期待します。	IAQG発行済みのSCMHについては、順次和訳版を発行しています。また、IAQGメンバーとして、新たなSCMHの発行も実施しています。(新たなテーマの希望があれば連絡いただきたい。)
3	Nadcap AC和訳のさらなる推進を期待します。	今後も、タイムリーに対訳版の推進を進めてまいります。
4	SCMHについて、説明はなくともテキストに具体的事例の一部を載せてほしい。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
5	要員能力検討WGに関するHF、力量管理ガイダンス作成の継続を期待します。	HFは2016年度に改訂を予定しております。力量管理は英文のガイダンス文書が存在しており、今後翻作業める予定です。
6	規格検討WGでの規格利用の促進を期待します。	今後のWG活動の参考とします。
7	スペースフォーラムについて、強固なQMSがガイダンス文書のような事例、ベストプラクティスの推進と文書化を期待します。	宇宙業界での強みに特化したベストプラクティスをスペースフォーラムの中で共有しています。今後、JAQG/IAQG活動に広げる様に活動していきます。
8	強固なQMSガイダンス文書の残り2項目の制定/発行を期待します。	日本語版については、3月に発行済みです。
9	SCMH WGIには、発注者-供給者のWin-Winな関係づくりに関する活動を期待します。	今後のWG活動の参考とします。
10	要員能力検討WGについて、資格認定、要員能力と業務アサインの考え方、教育紹介カリキュラム(航空・宇宙関係)などに関する指針を期待します。	BoKIは、要員に必要な力量を決めるガイダンスになる予定であり、業務のアサイン等も検討するよう働きかけます。AAQGでは教育機関のカリキュラムへの要員能力の適用も検討しており、必要に応じて関連する情報を展開いたします。
11	スペースフォーラムについては、JAXA殿にJIS Q 9100適用してもらえるよう働きかけてほしい。	JAXA殿もスペースフォーラムに毎回参加頂き、適用に向けた具体的な協議を開始しております。早期適用に向けてJAXA殿支援を行ってまいります。
12	SCMHに関連して、購買業者管理規格またはガイダンスの作成を期待します。	SCMH4章が購買関係のガイダンス文書であり、参考になると思います。
13	規格解釈の説明会を開催していただきたい。	今後の説明会・報告会の実施方法を含め検討します。
14	要員能力検討WGでは、従業員満足への取組みを期待します。	今後の改善として検討致します。
15	規格検討WG活動に関して、9100改正への日本の意見反映及び情報提供を期待します。	9100改正検討進捗に合わせ、規格検討WGがレビュー・意見提言を継続対応します。また、改正検討進捗に合わせ、情報提供する予定です。
16	航空会社(JAL、ANA等)のIAQGに関する認知度が低い感じがします。航空機のユーザーとの関係を強化を期待します。	今年度からステークホルダーとの関係構築強化を推進しますので、活動の一部として検討させていただきます。
「強固な品質マネジメントシステム構築の検討について」		
1	強固な品質マネジメントシステムの構築に関するガイダンス文書 その④について、現場だけでなく供給者からの意見吸上げ手順の検討も必要を思う。	強固なQMSに関するコメントと理解しますが、規格上は「組織」と「供給者」に分けていることも含めておりません。ただし、良いポイントであり、今後の活動では、ご指摘の観点も考慮します。
2	強固な品質マネジメントシステムは有用と思うが、適用システム確立の負荷が大きいと思う。	品質・安全に係わる重大な不適合及び企業の不祥事が、会社の存続を脅かすことや業界全体の信頼失墜につながるというリスクを考慮した場合、リスクマネジメントの観点から相応の負荷(未然防止処置)は必要と考えます。また、強固なQMS構築に関して、すべての組織が一様に適用するものではなく、リスクを考慮し、組織の規模や製品の規模・複雑さ等に応じて適用することが重要と考えます。

H25年度 JAQG活動報告会 (質問／コメント及び回答)

JAQG事務局
(3/3)

No.	ご質問／コメント内容	JAQG回答
3	強固な品質マネジメントシステムはQMの改善に向けて非常に参考となる文書で、今後も作成を続けて欲しい。	今後も、業界全体を通じてQMS改善につながる規格・ガイダンス文書の作成を目指し、取り組んで参ります。
4	強固な品質マネジメントシステムは要求事項としてJIS Q 9100に盛り込まれなければあまり意味がないと思う。	JIS Q 9100に盛り込まなくても適用・展開は可能と考えます。JIS Q 9100は、IAQGが作成する9100規格の技術的内容を変更することなく国内規格として発行しています。9100規格は、IAQGの規格改正手順・スケジュールに従い改正されていることから、他セクターの規格(AS、EN)との整合性を無視して、JIS Q 9100のみ独自の要求事項を追加することはできません。そのため、JIS Q 9100とセットで適用することを促進するため、SJAC 9068はその補足事項として発行しています。
5	強固な品質マネジメントシステムに関して、このようなガイダンス文書はありそうでない文書でベストプラクティスや関連事例、経験ノウハウが詰まった重要な文書だと思います。是非残りの2項目についても発行をお願いします。	非常に心強いお言葉に感謝します。今後も、業界全体を通じてQMS改善につながる規格・ガイダンス文書の作成を目指し、取り組んで参ります。
6	強固な品質マネジメントシステムが審査される要求となると、小企業にとっては負担になると思う。	強固なQMSについては、審査される／されないに係わらず、組織が、重大不適合や企業不祥事の影響というリスクを考慮し、組織の規模や製品の規模・複雑さ等に応じて適用することが重要と考えます。
7	強固なQMS構築について、7.4項に追加された内容をどのように行いか、解説いただけると助かります。	SJAC 9068 7.4.2に追加した事項の実施事例としては、取引先への仕様書又は注文書にSJAC 9068規格を引用することや当該箇所に対応する記述を追加することが考えられます。
8	強固なQMS構築のためのガイダンス文書について、飛行安全教育の素材・部品メーカーに“どこに使用され・・・”という箇所は、企業独自の教育は無理だと思う。機体会社が受入れて教育等を行うことも必要と考えます。また、JAQGとして展開を望みます。	会員組織の間では機種や部品が非常に多数存在しており、JAQGで展開するには無理があります。契約組織とご相談ください。JAQGからも協力のお願いはしていきたいと思ひます。
9	強固なQMS構築について、ヒューマンファクタに関する事項の規格化が有用になるとは思わない(ある程度は有用と思ひますが・・・)	コメントの趣旨は理解できますが、現実的に多くの不適合は、人的要因に関連するものであり、そのための対策を促進することは強固なQMS構築につながるという考えで規格に反映しています。
10	強固なQMS構築について、Human Errorの背景にあるEmployee Satisfactionを取り上げてはいかがですか。	今後の活動では、ご指摘の観点を考慮し、取り組めます。一方、ES(従業員満足)は、HEより広義に取り扱われ、また解釈される場合が多く、今回のSJAC 9068では取り上げていません。
11	部品加工メーカーにとって、部品ひとつを作る事が飛行安全になかなか結びつかない(周知させることができない)。	組織が、重大不適合や企業不祥事の影響というリスクを考慮し、組織の規模や製品の規模・複雑さ等に応じて取り組むことが重要と考えます。有効に周知させるためには、当然ながら各組織の規模や風土に合ったやり方を見つけることが肝要と考えます。
その他 要望・コメント		
1	今回の9100改正で、ヒューマンファクターズが取り入れられていますが、その中では、当時エラーにフォーカスされているような印象があります。全体的に見れば組織エラーに対する取り組みも含まれていますが、それがパッと見ではわかりにくいように思ひます。今後、組織エラーに対応していることを明示することを検討いただくと、より良いものになると思ひます。	今後の9100改正活動において、ご指摘の観点も考慮し、対応します。
2	審査員(認証)の増員支援を積極的にお願ひしたい。	JAQG会員会社に声掛けをしていきたいと思ひます。
3	各プライムからの供給者に対する品質要求を統一することはできないでしょうか？	JIS Q 9100規格の普及はさらに促進して参りますが、各社の品質保証の仕方にはそれぞれ考えが有り、9100でカバーしていないプラスアルファ分については残ると思ひます。今後も議論していきます。
4	登録組織数が434もあれば、日本内の登録組織が分かるようなシステムを作るべきだと思ひます。それにより、他社の不適合を自社に展開できると思ひます。	コメントの意図に不明な所がありますが、現在のOASISでも国内の登録組織は把握出来るため、OASISと別なシステムを作成することは考えていません。また、不適合等の個々の組織に関わる非開示情報は守秘義務を伴う情報であるため、もし他社の不適合を参考にしたいとのご要望であれば、残念ながらそれにお応えできるようなシステムは作成できません。
5	JIS Q 9100の認証により顧客監査の省略が活動の意義として挙げられていたので、できるだけやくこれが実現することを期待する。(JIS Q 9100認証及びNadcap認証後も現状顧客監査はへっていない。)	9100やNadcapなどの認証を取得することにより、各顧客監査は省略や項目の低減などを行われており、効果は十分に出ている(実現されている)と判断しています。しかしながら、ご指摘の観点も考慮し、顧客が取引先管理において、9100の認証がより信頼できるもの、活用できるものと認識され、その結果としてさらなる顧客監査の省略／低減につながるものとなるように、規格／認証制度の向上に向けて、今後取り組んでいきたいと思ひます。